

おひさま通信

仲間と一緒に、
暮らしの場を考える

サンライズ

サンライズについて

サンライズでは、現在27名の仲間が生活しています。10代から70代と幅広い年齢層の仲間たちがおり、開所してから19年が経過しました。サンライズはアパートタイプのグループホームとなっており、手すりやスロープなどは設置されていません。長い年月の中で仲間たちも年を重ね、健康状態の変化や身体機能の衰えを感じるようになり、また、一軒家と違い部屋が分かれているため職員の目も行き届きにくい部分があり、急に体調不良になったらどうしようかと、特に高齢の仲間は不安を感じていました。そうした高齢の仲間や発作がある仲間は、アパートタイプのグループホームでは生活しづらいつと感じるようになり、高齢期を迎えた仲間たちの暮らしをどう支えていくか、ということがサンライズの課題となりました。

暮らしにくさを感じるようになった仲間たち

7年程前、病気のため車椅子での生活となった小西さんという仲間がいました。サンライズの入り口は階段となっており、車椅子では通れません。また、部屋も狭く、階段もあるため車椅子では移動することが出来ません。小西さん自身はサンライズでの暮らしを望んでいましたが、そうした設備の問題から、小西さんはサンライズで生活し続けていくことが困難になってしまいました。そんな小西さんのことを思い、長田さんが「バリアフリーのホームで暮らしたい」という声を挙げました。横山さんや高齢を迎えた仲間たちも、長田さんの思いに賛同し、仲間たちの強い思いに後押しされ、バリアフリーのホーム作りの計画が動き始めました。

新しいホーム作り

ホーム作りの計画が立ち上がってから、数年の時間が過ぎていきました。その間、仲間たちは職員と一緒に他法人のグループホームをいくつか見学しました。仲間たちは「やっぱりアパートより一人ひとりの個室が広いし、鍵も付いていて良いな」「段差はないし手すりもあって、やっぱり一軒家のホームの方が良いな」と感

想を話しており、それぞれの仲間が将来の暮らしへの想いを膨らませていく様子がありました。そして、今から2年前、不動産会社から「グループホームを建てるので賃貸をしませませんか」とオファーがありました。物件土地探しでたくさんのお話を聞いたのだと思います。

仲間の思いから7年を経て、昨年度に念願の新しいグループホームの建設が始まりました。ホームの身づくりに関しても、仲間たちと一緒に行ってきました。車椅子でも入れられるように玄関を広くし、スロープを付けました。また、お風呂場やトイレも車椅子で入れるように広い作りにし、手すりを設置しました。さらに、女性の仲間より、「トイレはみんなが使うから1階と2階の両方にほしい」という声も挙がり、2つ設置することを決めました。他にも、「床は温もりのある木目調が良い」「収納スペースは広くしてほしい」など、仲間たちからはたくさん意見が聞かれました。完成した図面を見ることが、建設中のホームの見学会などを行う中で、少しずつ仲間たちも、「新しいホームが出来るんだ」「新しい生活が始まるんだ」という実感を得ていったように感じます。

響き

はれ
先日「はれ」で第1回目の仲間自治会が行われました！11名の仲間が立候補し、これまで自治を担ってきた仲間、長年いた中で初めて手を挙げた仲間、みぬま外部から来て初挑戦する仲間など新鮮な顔ぶれです。これから一緒に「はれ」での生活や仕事について考えていきたいと思っています。

大地

大地では、17年使用したシャワー浴槽を人材確保等支援助成金を受け、入れ替えが行われました。6月10日に搬入され、オープン型シャワー浴槽になりました。

浴槽の側面がカーテンになったことで手足を伸び伸ばさせることができるようになりました。また、タイマー機能や、掃除用シャワーなどの機能があり、以前より使いやすくなり快適なお風呂タイムになっています。

白岡市障害者デイサービスセンター

新しい仲間Sさんは入浴を目的としていて、それ以外は何もしていません。しかし、仲間たちは何ら違和感をもたずに関係性を育んでいます。

オレンヂホーム

「はれ」の開所に伴い、オレンヂホームからも3人の仲間が移り、開所ぎりぎりまでオレンヂにいた3人が居なくなると「寂しいね」という声も自然と出ていました。5月になりホーム内での引越しや新入居者が使い始めています。時期がずれましたが、別れと出会い、期待と不安の季節を迎えています。

大宮太陽の家

大宮太陽のふらわー班では、健康面やリフレッシュを兼ね、交流センターでプールの活動を始めています。新年度に入ってから話し合ってきた企画ということもあり、いざその日が来ると泳いでみたり、追いかけてみたり、浮いてみたり：みんなとてもはしゃいで楽しんでいました！



サンライズ職員 星野 夕貴

そして、忘れてはいけない大切なことは、新たなホームの名前決めです。たくさんの方が挙りましたが、ホーム作りのきっかけとなった仲間が「太陽に向かって咲くひまわりが良いな」という発言をしてくれました。しかし、「ひまわりという施設はいっぱいあるからわかりにくい」等の意見もあり、じゃあ英語にしてみよう、となりました。英語にするとサンフラワー。みんな、「その名前がいい。かつこい。素敵だ」と口をそろえて言っていました。こうして、新しいホームの名前は「サンフラワー」に決定しました。

そして工事は着々と進み、竣工式では、仲間代表として長田さんが工事会社やオーナーの方々挨拶をしました。「私たちの念願のホームです。どうぞよろしく願います」のこの長田さんの言葉に、みんなが拍手で祝ってくれました。

そして、ついに今年の4月に念願のホーム、サンフラワーが完成しました。初めてサンフラワーに足を踏み入れたときの、仲間たちの嬉しそうな顔は忘れられません。一部屋ひと部屋すみずみまでチェックする仲間、「ここにベッドを置いて」と言い、早速新しい部屋づくりをイメージする仲間、本当にサンフラワーの完成を心待ちにしていたのだなと感じま

念願の引っ越しを終えて

引越しは、週末を利用して2人ずつ行いました。そのため、引っ越し初日の夜は2人だけ。今まで賑やかだったサンライズから離れ、長く一緒に暮らした仲間たちとも別れ、念願のホームに引っ越してきた喜びよりも寂しさの方が少し上回ったような、静かな夜となりました。週末にはまた2人、さらに翌週にも2人と仲間が増えていくとそんな寂しさは一気に吹き飛んでいきました。徐々にサンライズにいた頃のような賑やかな風景が戻ってきました。仲間の生活に目を移すと、発作があり足元に不安のある仲間のみそ汁をよそって運んであげたり、お風呂上りには次の人に声をかけたり、互いに思いやり譲り合う姿が見られています。また、それぞれの部屋にいてもドアを開ければ職員がすぐ近くにいるため、ゆつくり職員と話をする時間も長くなりました。仲間たちから、「玄関やお風呂が広くて、手すりもあるから安心だね！」「部屋も収納スペースがたくさんあって嬉しい」という感想をたくさん聞くことができ、職員も嬉しく感じています。反面、「トイレが長い！」「洗濯機に洗濯物入れっぱなし！」といった、ちよつと

